**令和２年度南丹市一般会計・特別会計決算の概要**

**令和２年度決算　一般会計の概要**

**歳入　　２９８億　　２０３万２，７４４円**

**歳出　　２８７億２，２７０万２，７０２円**

令和３年南丹市議会９月定例会で認定されました、『令和２年度南丹市一般会計・特別会計決算』の概要についてお知らせします。

令和２年度一般会計決算は、市に入ったお金(歳入)の総額が２９８億２０３万２，７４４円、使ったお金(歳出)の総額が２８７億２，２７０万２，７０２円となりました。歳入歳出差引額は、１０億７，９３３万４２円となり、このうち翌年度へ繰り越すべき財源４億９，０７１万8,000円を差し引いた実質収支額は、５億８，８６１万２，０４２円の黒字決算となりました。

ただし、その歳入には、前年度からの繰越金９億１，２３９万９，３１２円が含まれています。

歳入で一番多いのは、標準的な行政サービスを行うために交付される「地方交付税」が９５億２，６３９万４，０００円、歳入全体の３１．９％を占めています。続いて、特定の事業実施のために国から交付される「国庫支出金」で６6億1,318万７２４円（22．２％）、市民税や固定資産税などの「市税」で４0億5,519万6,454円(１3．6％)の順となっています。

歳出は、市の全般的な管理事務、企画調整事務等に要する経費や、新型コロナウイルス感染症緊急支援対策に係る特別定額給付金事業を行った｢総務費｣が70億8,870万5,869円と最も多く、歳出全体の２4．７％を占めています。続いて｢民生費」が66億７０万7,486円　(23.0％)、｢教育費｣３5億3,557万9,018円(１２．３％)、｢公債費｣31億4,223万8,918円(１0．9％）となっています。

そのほか、5特別会計（企業会計は除く）について、すべて黒字決算を維持しております。

令和２年度においては、とりわけ、子育て環境の充実に向けた取組や、安全・安心な学校教育環境の整備、また、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に全力で取り組むと共に、市内経済の活性化に向けて、意欲的に取り組んだ結果を反映したものとなっております。

一方で、市民税等の減収に加え、普通交付税の合併算定替が最終年度を迎える中で、子育てから高齢者まで幅広く生活を支える扶助費や施設整備などに伴う長期借入市債に係る償還金も多く、大変厳しい財政状況となっています。

このように厳しい財政状況の中ではありますが、様々な行政課題や大型事業への対応など、市民の皆さんの要請に応えるべく、10年先２０年先の将来に希望の持てる南丹市の実現に向けたまちづくりを進めてまいりました。